

平成27年度「みえの現場“やっぱし” すごいんかトーク」(四日市市)の概要

平成27年10月31日(土)に、日永地区市民センターで、「みえの現場“やっぱし” すごいんかトーク」を開催しました。

当日は、「四日市あすなろう鉄道」のファンを増やしたいとの思いから、鉄道沿線の魅力や情報の発信などの活動を行っている「『特定非営利活動法人 四日市の交通と街づくりを考える会』の皆さん」7名と一緒に「四日市あすなろう鉄道」に乗車した後、活動の魅力やこれからの課題などについてご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

代表から、団体の活動について紹介をしていただいた後、メンバーの皆さんから自己紹介をしていただきました。

(活動紹介)

- 沿線住民として、全国的に非常にめずらしいナローゲージの「四日市あすなろう鉄道」の魅力や情報を発信したいという目的で、写真による情報発信、シンポジウムの開催、ウォーキングイベントを実施するとともに、鉄道沿線の花植え活動などにも取り組んでいる。
- 四日市あすなろう鉄道のいい写真を撮ってマスコミに提供したりすることも、啓発活動の一環として行っている。

Q 活動の魅力や地域の魅力についてお聞かせください。

- 地域の皆さんと連携して活動をすることで、地域のことを知ることができ、住みやすい街にどんどん変わっていくことが楽しみ。

- 「四日市あすなろう鉄道」を盛り上げようと活動したことがきっかけとなり、企業や様々な団体とのよい関係を築くことが、街づくりにつながっていく。また、子どもたちと一緒にやっていくことにすごい魅力を感じている。このことが楽しくて、やりがいを感じている。
- 活動を始めてから、知り合いとか声掛けてもらえる人ができ、「四日市あすなろう鉄道」に乗ると必ず知り合いと会うということが、面白いと感じている。
- マップを作りながら、地域のすばらしさを新発見とか再発見できることが楽しみになっている。
- 活動を通じて、いろんな人に応援していただいていることを感じ、人的ネットワークが広がることに喜びを感じる。
- 都市鉄道でナローゲージを使っているのは世界で「四日市あすなろう鉄道」と「三岐鉄道北勢線」2か所だけしかなく、鉄道ファンにとって素晴らしいスポットがたくさんあることを魅力に感じている。
- 地元にある貴重なものを地元の人が知らないことはもったいないと感じ、情報発信に取り組んでいる。取り組んでいる内容は違っても、街づくりに取り組んでいる人には共通する部分があって、横のつながりができることが自分の財産となっている。

Q これからの課題、これからの夢についてお聞かせください。

- 衰退していく公共交通機関が多い中、「四日市あすなろう鉄道」が残っているのは、市民活動が熱心であったおかげと感じている。こういったことも情報発信しながら、活動を続けていきたい。
- 車と公共交通機関のバランスを考えた街づくりに取り組んでいきたい。
- 1区間（約1.3km）しかない八王子線を、みんなで手をつなごうというイベントを企画しているので、県民の皆さんで支えてほしい。
- 台湾にもナローゲージがあるので、昇竜道プロジェクトの一環として北勢線と内部・八王子線を観光地化してほしい。
- 子どもに「四日市あすなろう鉄道」に乗車したことがあれば、県外へ転出したとしても、戻ってきて乗車したいと思うきっかけになると思うので、イベントなどを通じて子どもたちが乗車する機会を作ってほしい。
- 「四日市あすなろう鉄道」の魅力をしっかり発信することで、全国から小さな電車が走っている街だというように知名度を上げて、四日市をより良い町にしていきたいと思う。

【知事の発言】

○多くの皆さんが、地域の活動をすることで地域の人達の顔が見れるようになって、地域に住みやすくなったと言ってくれた声が多くあり、大変うれしく思った。

○「四日市あすなろう鉄道」が、地域の宝であり魅力でもあることを知ってもらうために力を貸してほしい、との思いを感じたので、皆さんと一緒に汗をかいてこれからも頑張っていきたいと思う。

